

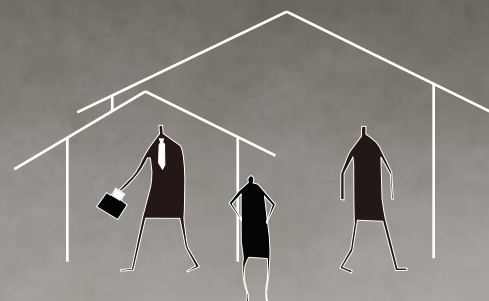
週末にはお茶を一杯。

「茶室」それは“お茶を飲むだけ”の建築形式。
それは時に
集まって住まう人たちとまちをつなぐもの
時に
それぞれの穏やかな時間を育むもの



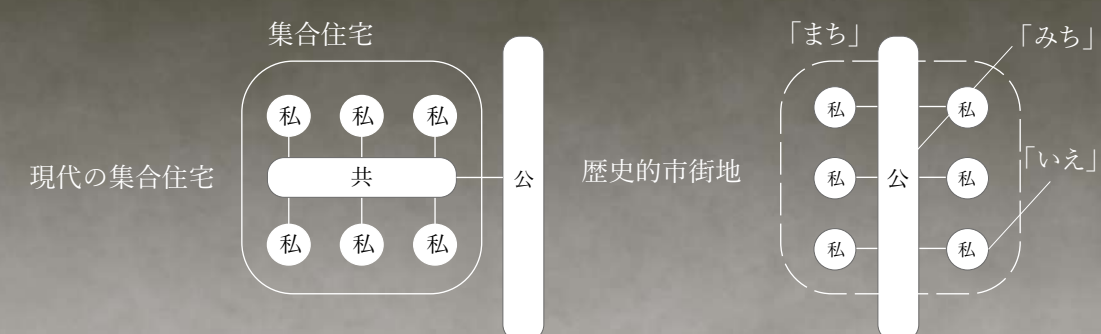
X-X' 断面図 s=1:100

0. 閉塞的な現在の集合住宅



現代を生きる私たちの住まう集合住宅は隣に住む人の顔も知らない奇妙な暮らしである。そこで、集まって住まう人たちが交流し、それぞれが穏やかな時間を育む『まち』をつくり、ほっと一息をつく『茶室』をもつ『いえ』に一度、二度、しまいには毎週末訪れてしまうような場所となる集合住宅を提案する。

1. 歴史的市街地の持つ「まち」と「いえ」と「まち」



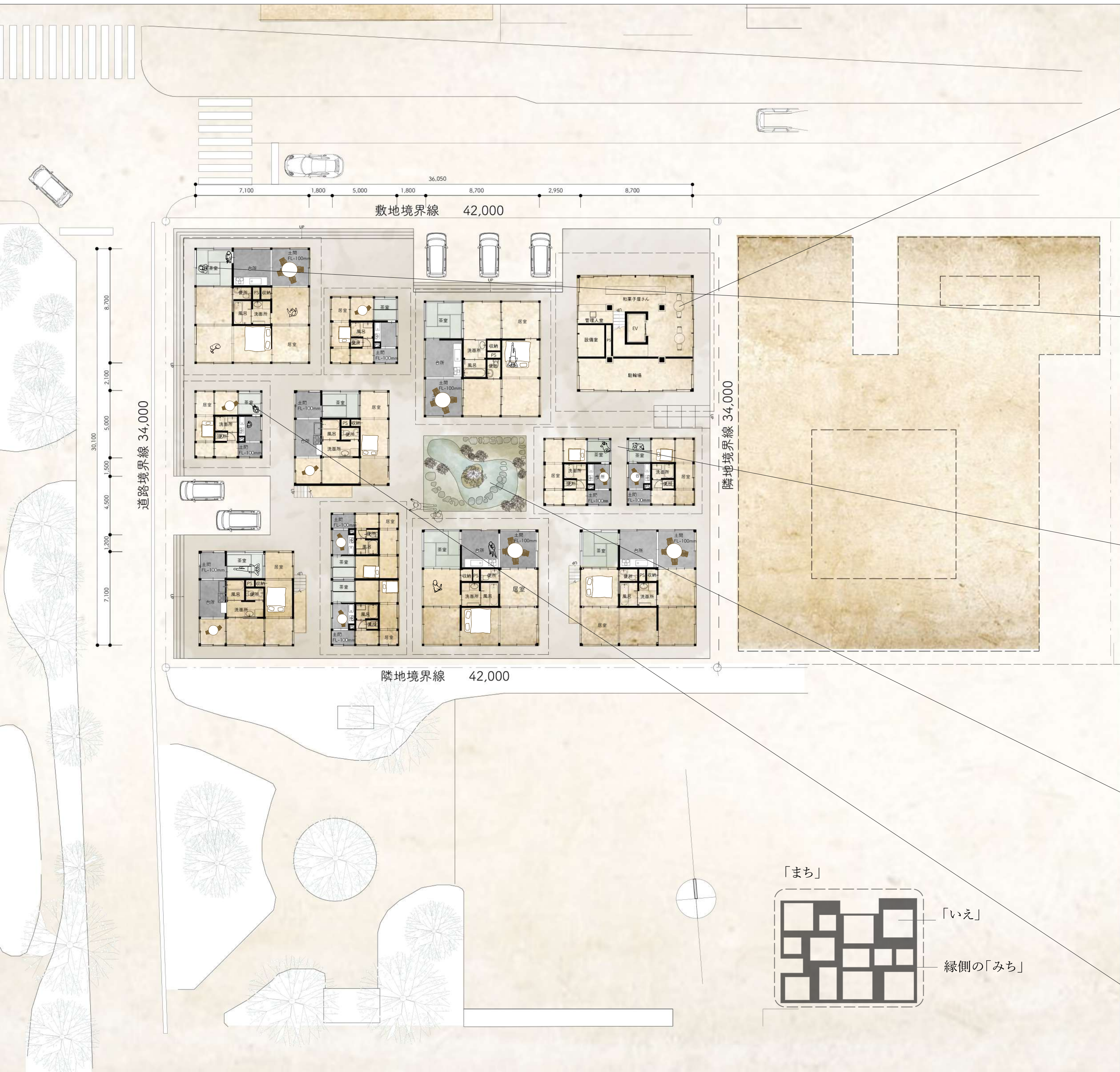
従来の集合住宅の共用廊下は通路という独立した単一機能空間である。しかし、歴史的市街地は公の「まち」を介して「いえ」が並ぶ。そこで縁側の「まち」を介して「いえ」を並べる配置計画とした。縁側は単なる通路ではなく集まって住まう人たちの憩いの場所として生まれ、交流を生み出すことを可能とし「まち」と「いえ」は互いに呼応して、「まち」として機能する。「まち」を立体化することでオープンな都市空間を構成

2. お茶を飲むだけの建築形式を用いた集合住宅



「茶室」とは世界で唯一の客人を招いてお茶を飲むだけの建築形式である。隣に住む人の顔も知らない奇妙な暮らしをしている現代の私たちから少し過去を振り返り、ご近所さんや隣人、友人、同僚などの客人を招いてもてなし、ほっと一息お茶を飲む。そんなひとときをもう一度よみがえらせたい。武田五一は茶室建築の本質を千利休の『待庵』を例に「茶室の魅力は自由なデザインにある」と主張した。集まって住まう人たちが自由な茶室で、交流を深めたりそれぞれが穏やかなひとときを暮らす場所へと。

1 1階平面図兼配置図 s=1:200

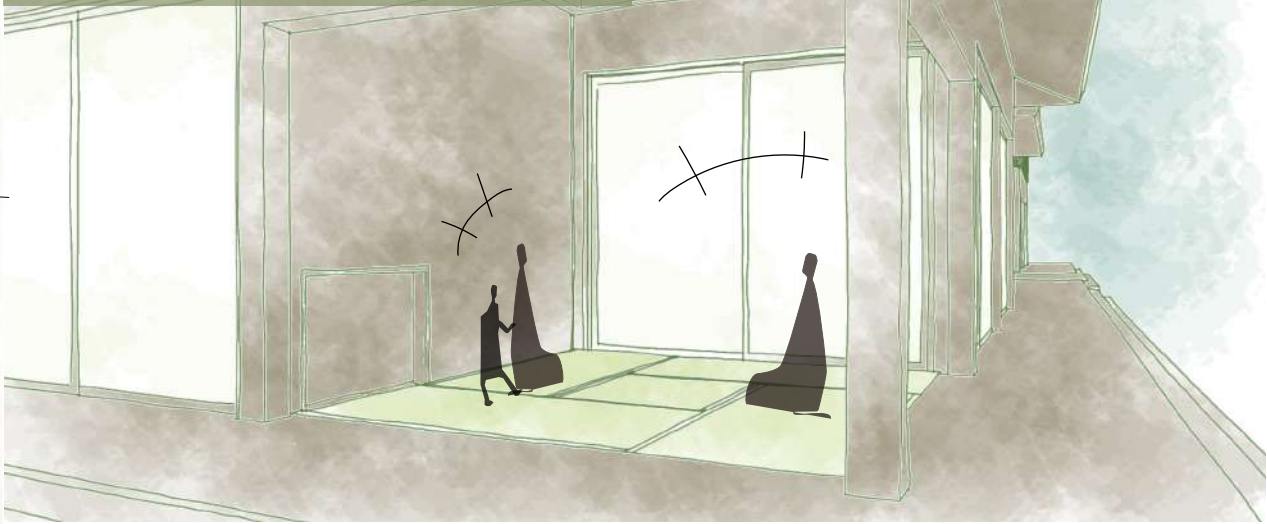


2 「まち」で育まれる行為を見る

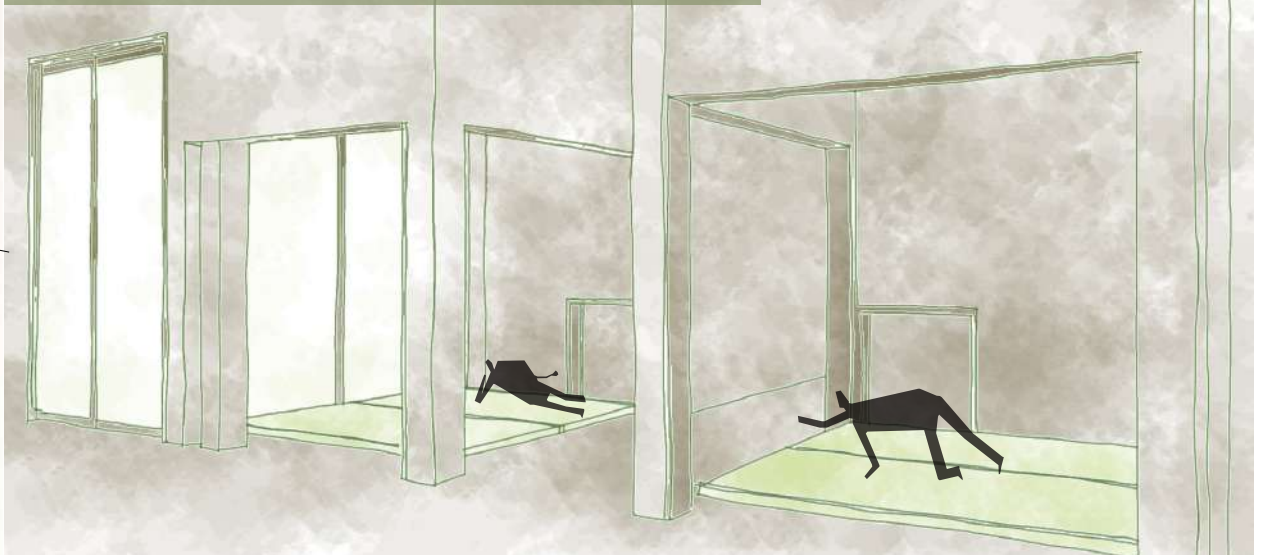
1. 茶会を行う広間から見る「まち」



2. 客人を招いてお茶を飲む茶室



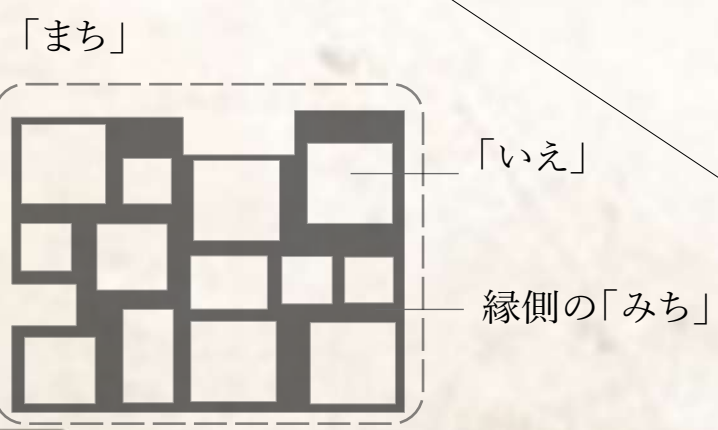
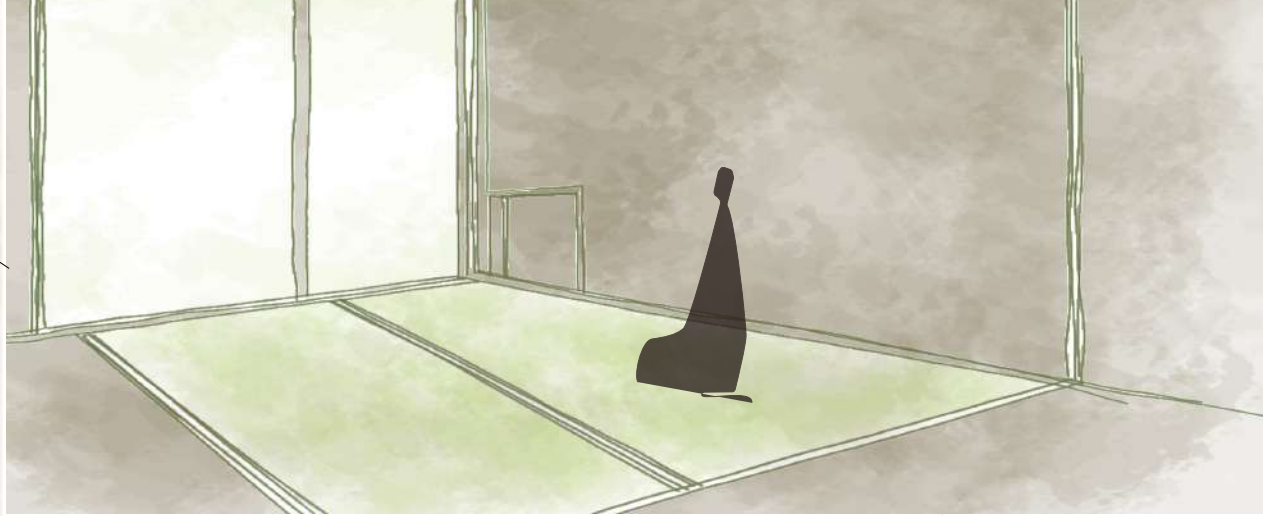
3. 集まって住まう单身者がつながる茶室

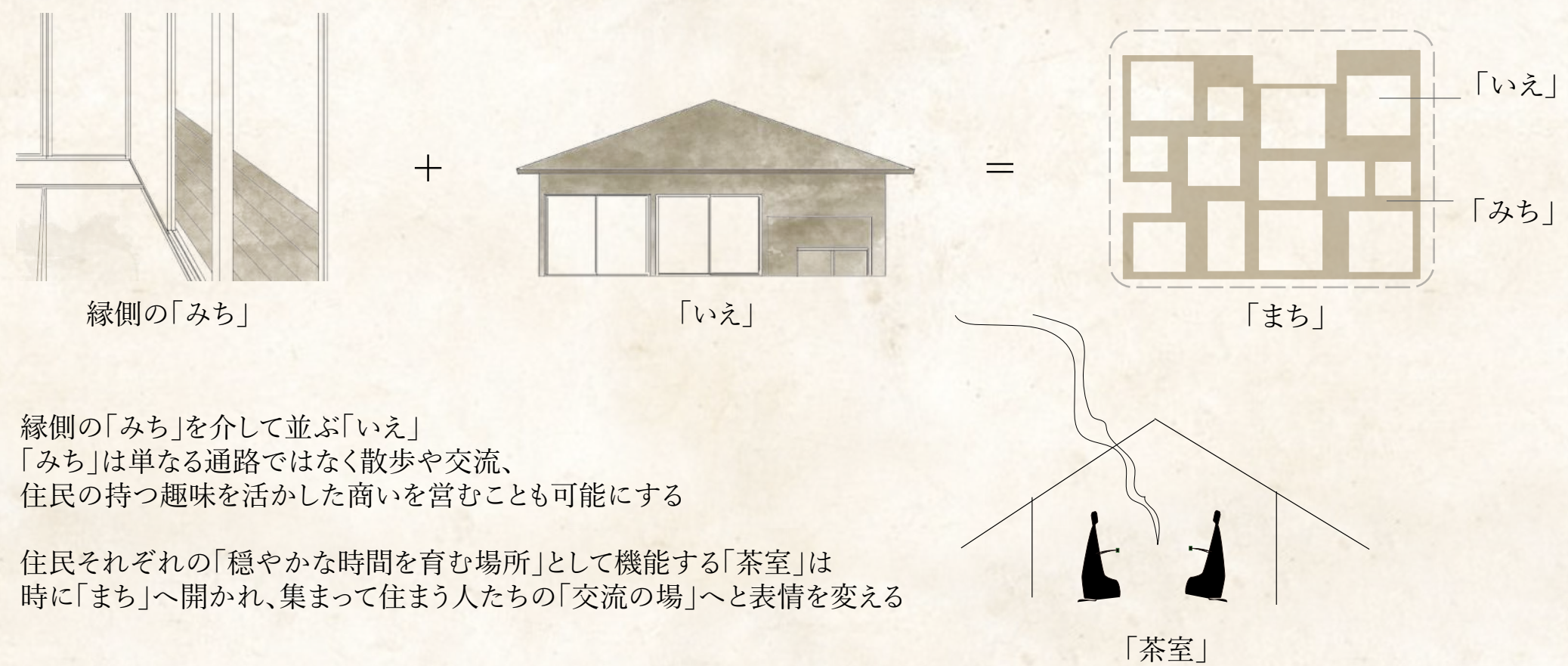


4. 「みち」のようす

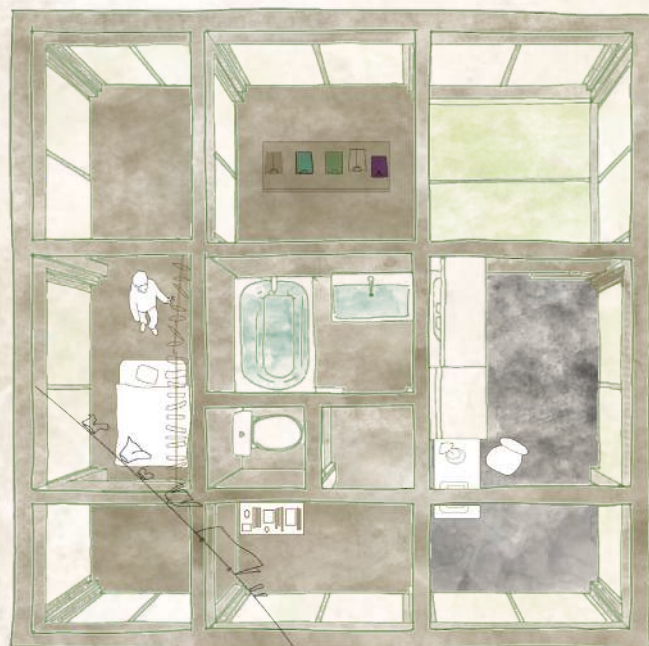


5. 穏やかな時間を育む茶室

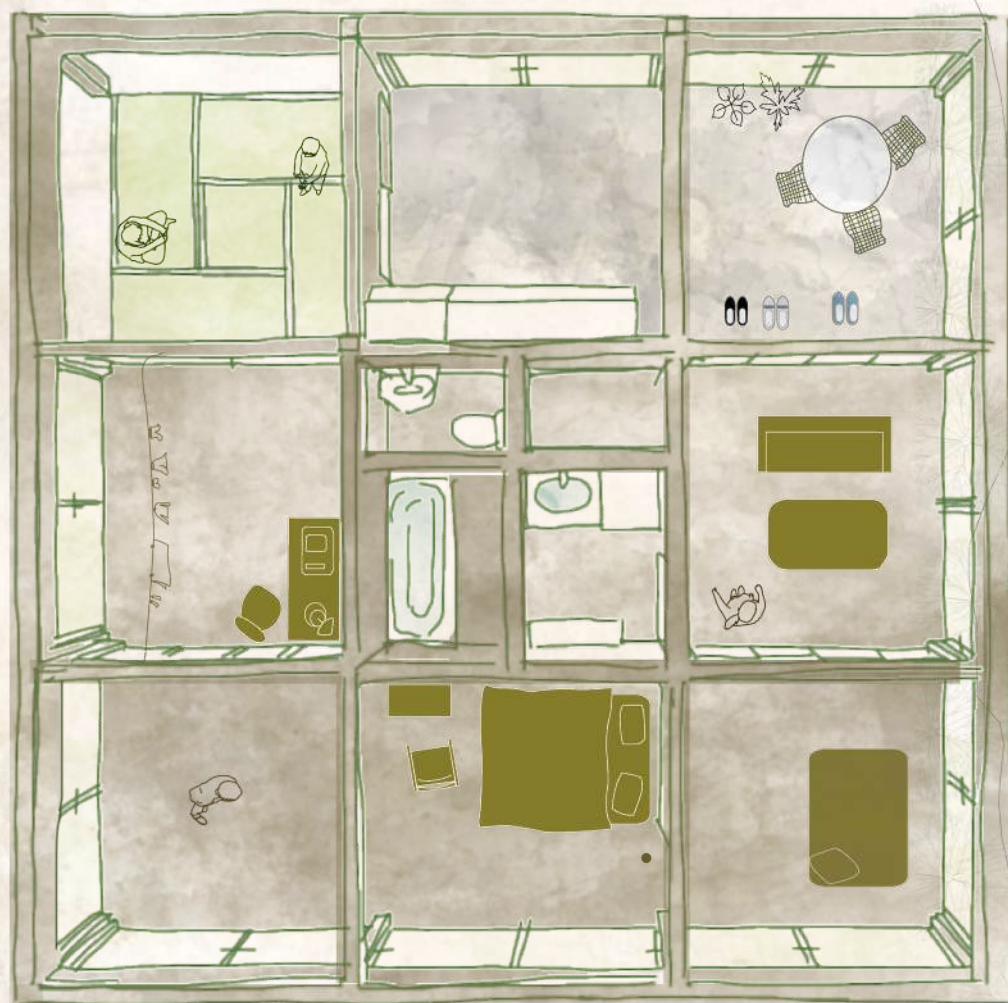




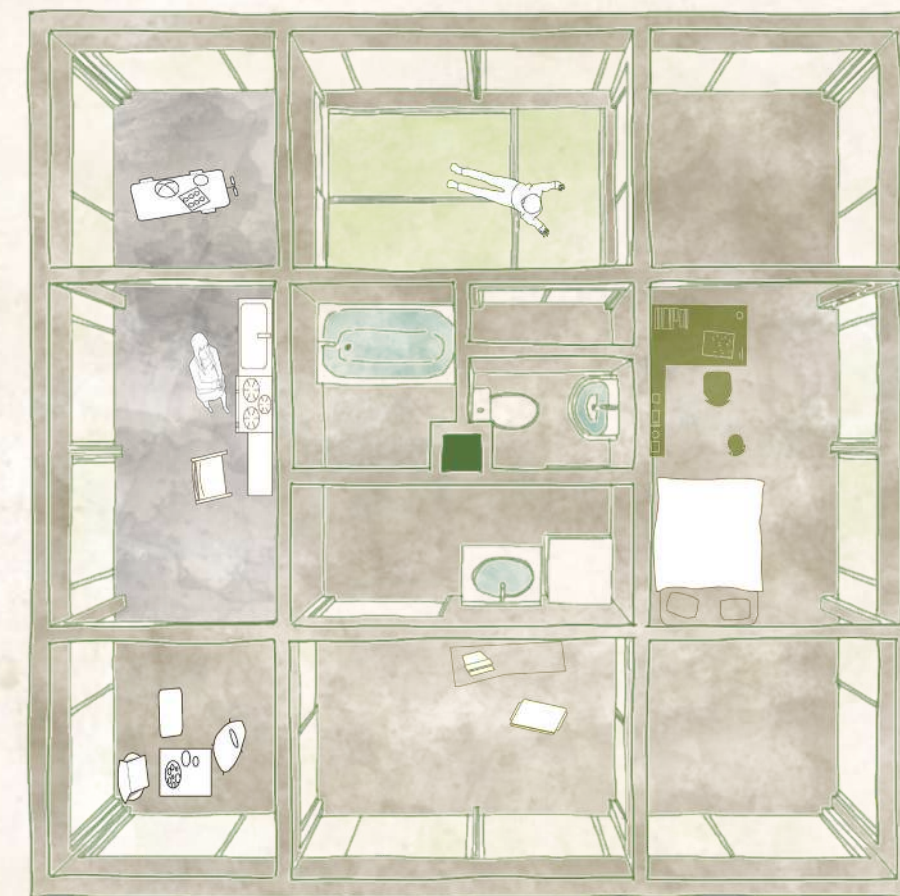
単身者の住まう住戸



4人家族の住まう住戸



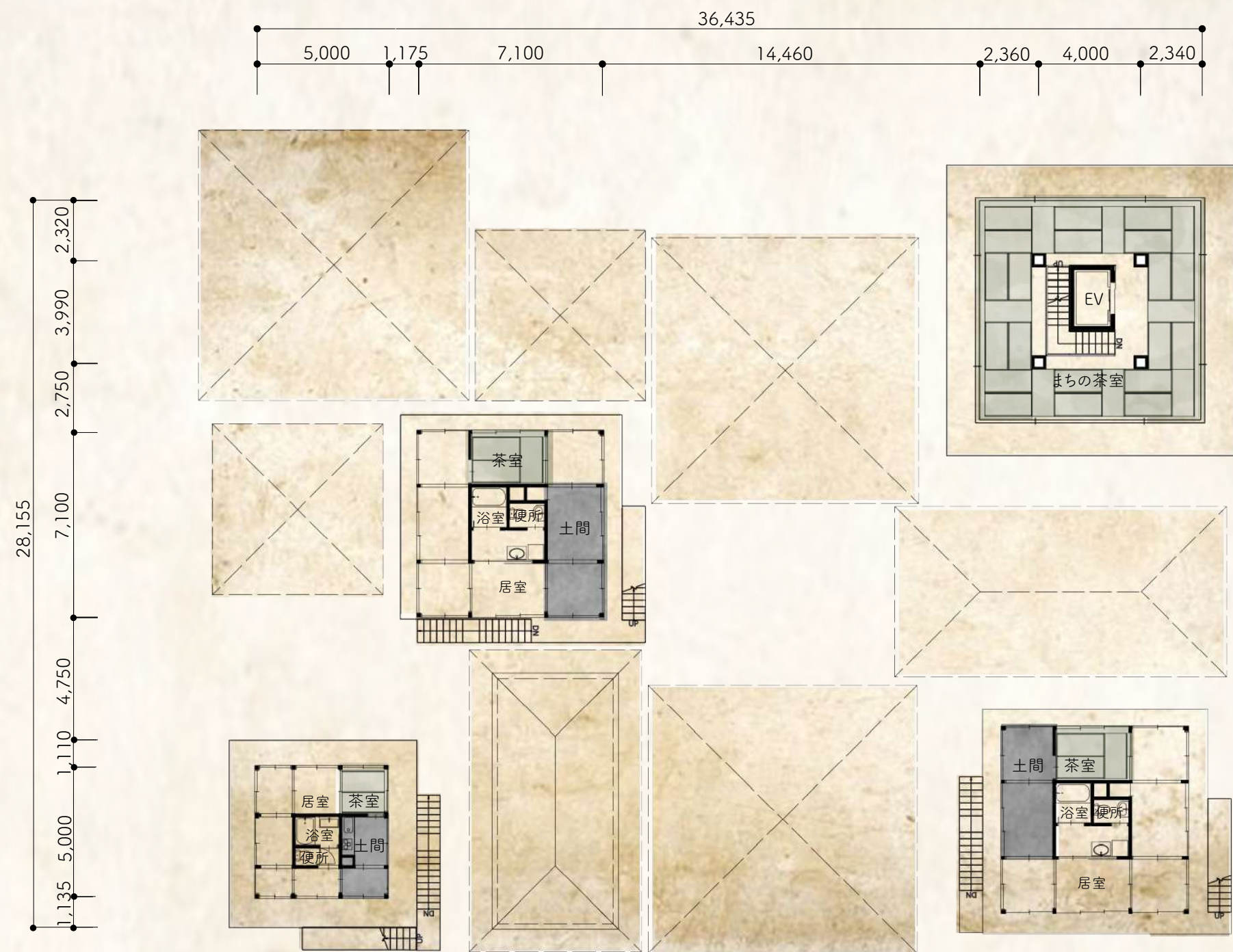
2人暮らしの住戸



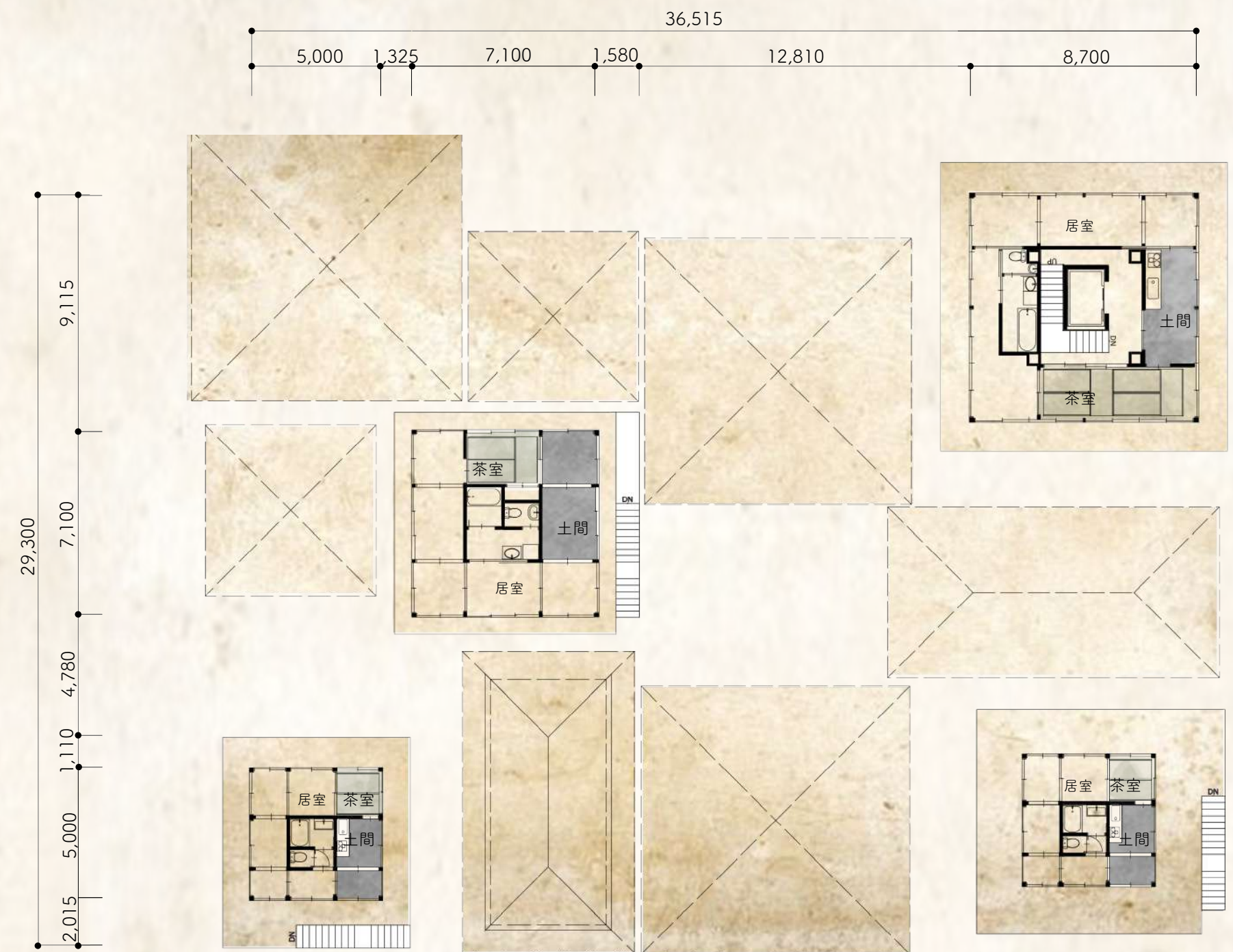
面積表

建築面積	1,225.20㎡
1階床面積	1,225.20㎡
2階床面積	325.65㎡
3階床面積	325.65㎡
4階床面積	100.42㎡
5階床面積	84.73㎡
延床面積	2061.65㎡

8 2階平面図 s=1:200



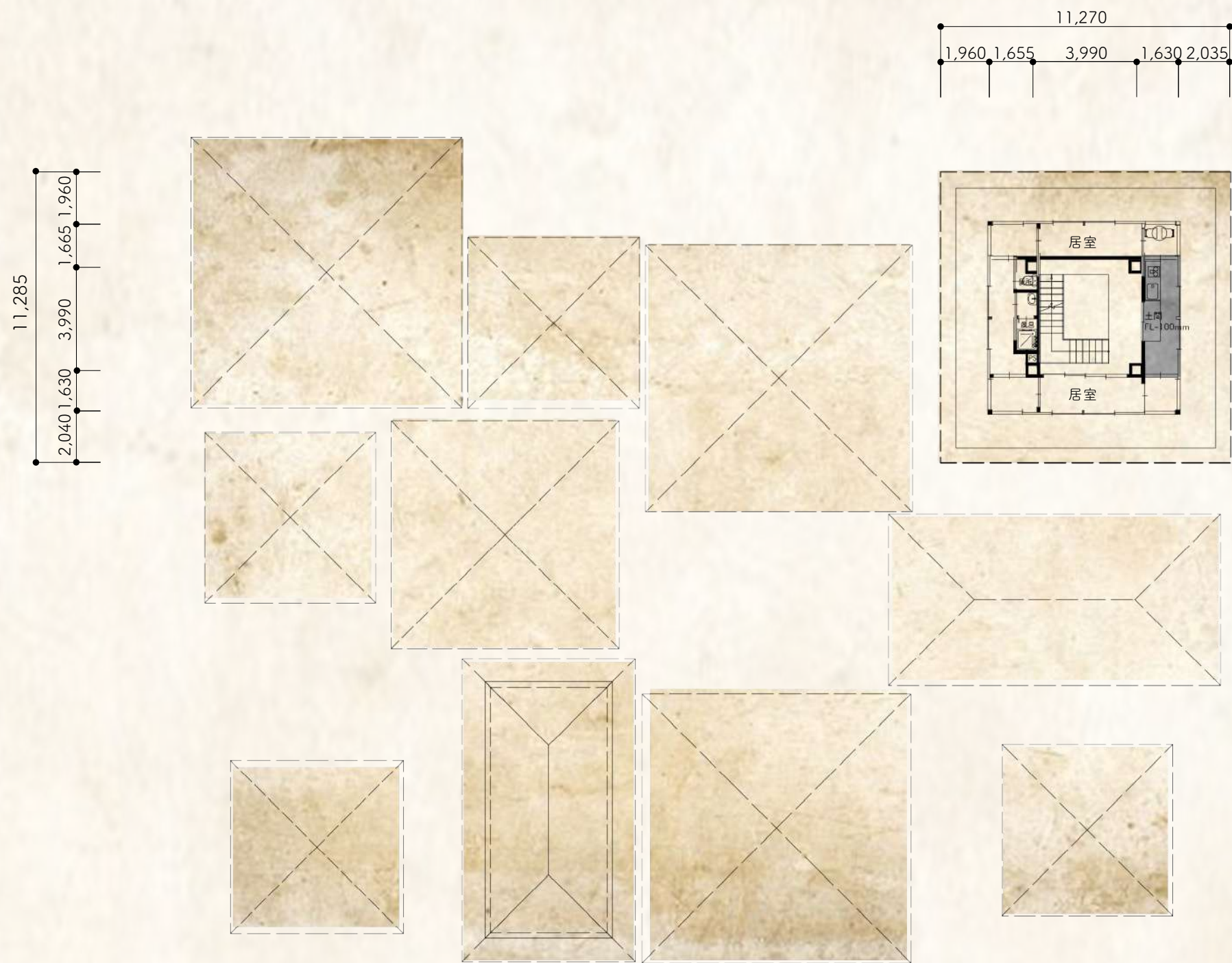
9 3階平面図 s=1:200



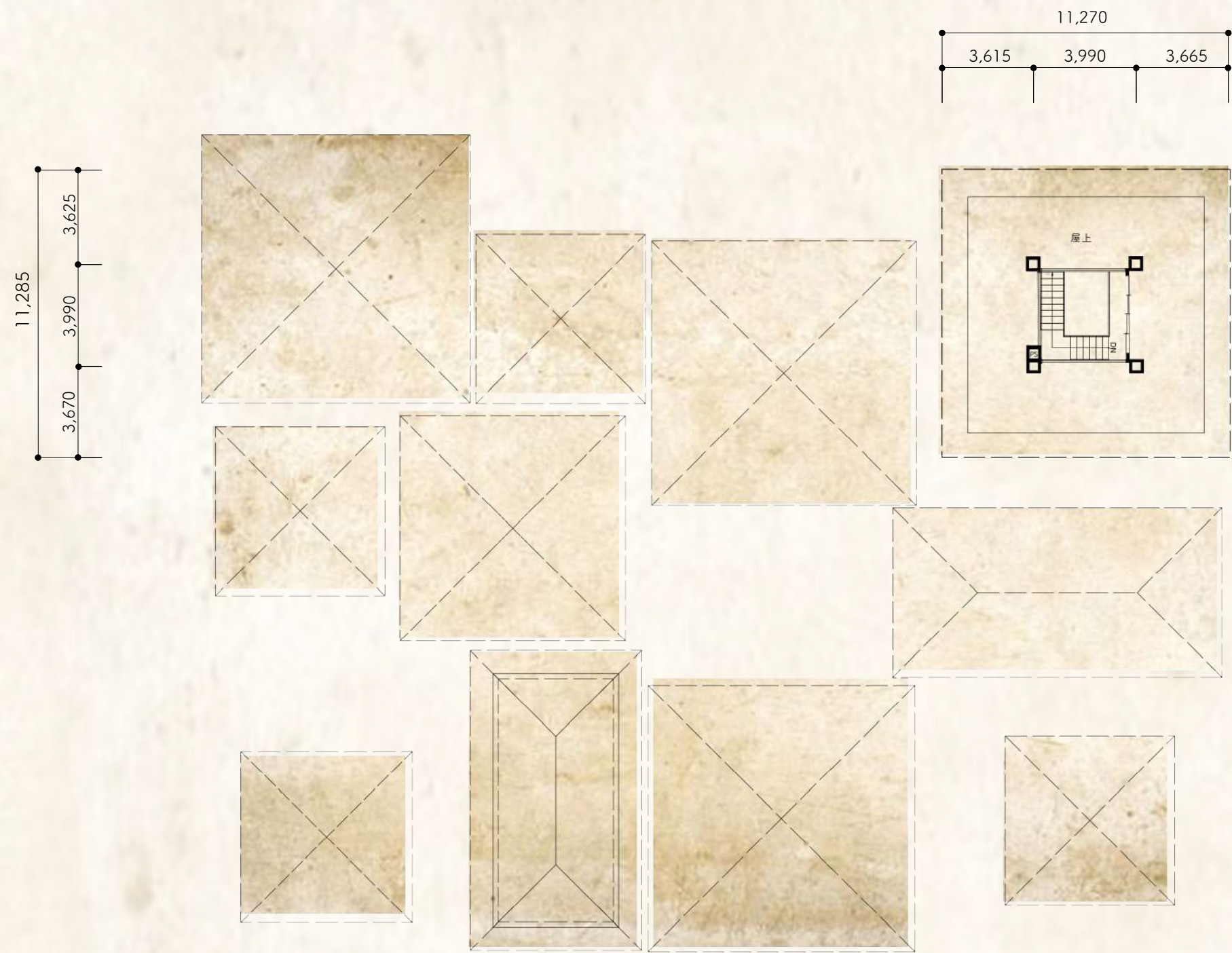
10 北側立面図 s=1:100



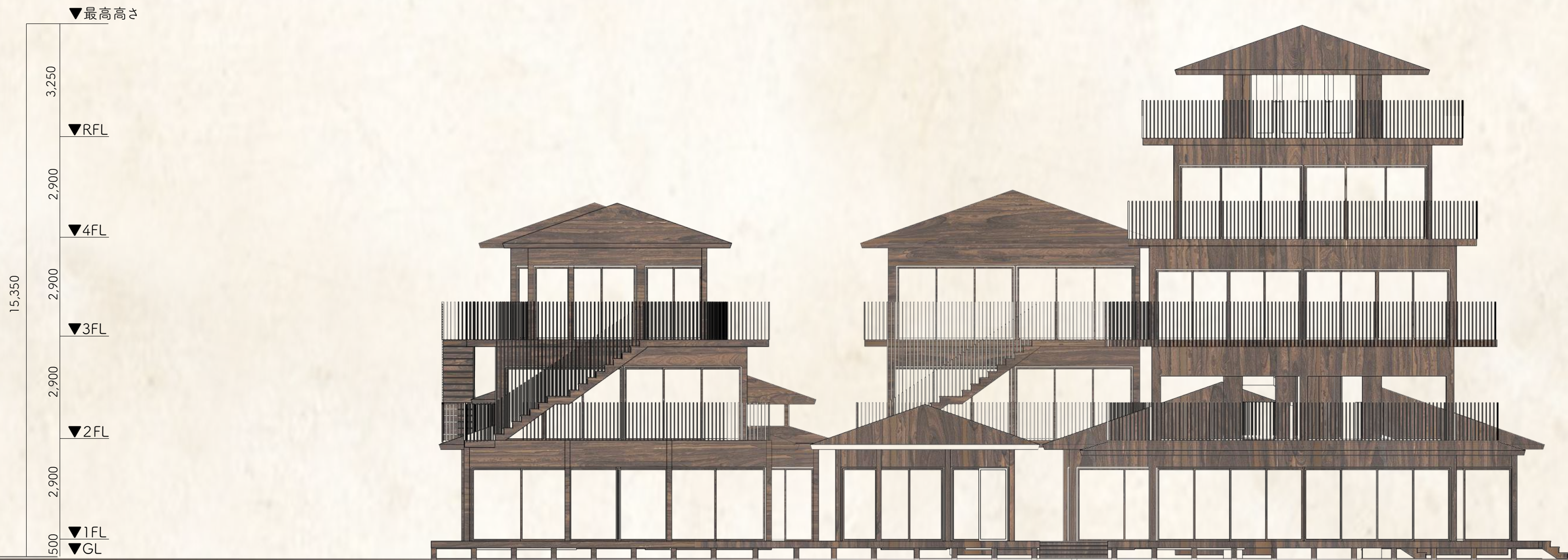
11 4階平面図 s=1:200

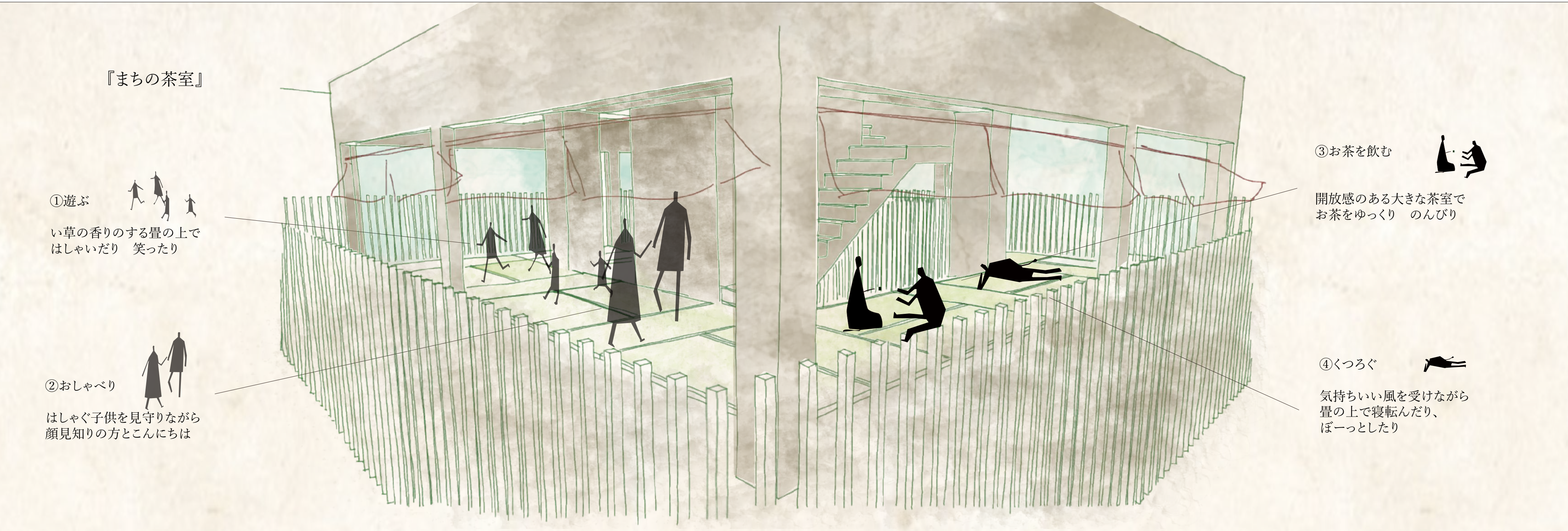


12 5階平面図 s=1:200



13 東側立面図 s=1:100





7 Y-Y'断面図 s=1:100

